

かお・人・会見

2017年8月10日(木)



九州地整／増田博行局長が就任会見

3本柱「守る、聞く、攻める」

“未来に向けた次の一手、”

国土交通省九州地方整備局長に今年7月就任した増田博行氏の就任会見が8日、福岡市の福岡第二合同庁舎で開かれた。自ら掲げた「しっかり守る」、「しっかり聞く」、「果敢に攻める」の“3本の柱”を基に、九州の未来像について熱く語り、「よりよい九州のために貢献していきたい」と意気込みを述べた。本来なら7月7日の着任早々に行うべき会見だったが、同時期に発生した「九州北部豪雨災害」の対応などもあり、会見自体が引き伸ばされていた。

◎ “未来に向けた次の一手、”

私の出身地は福岡市であり、福岡勤務は2009年7月～12年3月の福岡県県土整備部長以来となる。今まさに、九州北部豪雨災害をはじめ、熊本地震からも1年が経過し、復旧・復興に向けてこれからが本番だと考えている。

さまざまな災害で失った物の復旧・復興はしっかりとやっていきたい。それに加えて復旧・復興の段階で地域がさらによくなる工夫も必要だと考えている。また、熊本に限らず、九州は災害が多い地域であり、防災・減災など「国土の強靱化」もしっかりと対応してまいりたい。一方、災害対応や防災など“守り系”の話だけではなく、今後“未来に向けた一手”も必要だと感じている。

中長期的な視点から、九州が未来にどうやっていくべきかしっかりと考え、今やらなければならない一手、今打たなければならない一手を果敢に打っていきたい。九州の強みは何なのか。それをどう生かすのか。九州が中長期的に活力を維持するためにわれわれはどうお役に立てるのか。しっかりと考えていきたい。



◎ “3本の柱、”

私は次の「3本の柱」に力を入れていきたい。

一つ目は「しっかり守る」。いうまでもなく、熊本地震からの復旧・復興をしっかりやる。今回の北部豪雨災害

の復旧・復興をしっかりとやる。そして九州全体の国土の強靱化もしっかりやる。これは非常に重要だと考えている。

二つ目は「しっかりと聞く」。何をやるにしても“地域の声”をしっかりと聞いて、われわれの事業に反映してまいりたい。

三つめは「果敢に攻める」。地域の競争基盤整備をしっかりと進める。九州全体としてまだまだ高速道路のミッシングリングもあり、競争力に必要な基礎インフラができていないところもある。そういう点も含めて、未来に向けて今打つべき一手を、時期を逃さずに果敢に打っていきたい。

この「3本の柱」を意識しながら、国民の皆様の信頼と期待に応え、よりよい九州のために貢献してまいりたい。

◎プロフィール



増田 博行（ますだ ひろゆき）

東京大学大学院工学系研究科土木工学専門課程修了後、1985年に建設省（当時）に入省。1998年には鹿児島国道工事事務所長として勤務。福岡県県土整備部長、国土交通省道路局企画課長、同省大臣官房審議官（道路局担当）を経て2017年7月から九州地方整備局長に就任。

福岡市出身。57歳。